

JACDS ダイレクトニュース

発行：(一社)日本チェーンドラッグストア協会 広報担当

2020年8月 ドラッグストア総売上 9.1%増

経産省は9月30日、2020年8月分の商業動態統計（速報値）を発表しました。

2020年8月のドラッグストア販売額は6,416億円、前年同月比でみると9.1%の増加となっています。商品別にみると、ヘルスケア用品（衛生用品）・介護・ベビーが同42.2%の増加と高い伸び率を示しています。上場企業の月次報告を見ても8月は概ね良好の数字を出しています。

一方、ビューティケア（化粧品・小物）は依然として厳しい状況で、5カ月連続二桁のマイナスからは脱したものの、▲9.2%の減少となっています。

一方、他業態の総売上比を8月対前年同月比でみると家電大型店舗が9.5%増、ホームセンターが12.4%増と依然として高い伸び率を示しています。

■2020年1～8月 ドラッグストア商品別販売金額（対前年同月比 増減）

（単位：％）8月のみ速報値

2020年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
総売上	6.3	19.1	7.6	10.8	6.4	6.4	5.5	9.1
調剤医薬品	11	16.7	10.8	11.2	2.4	7.1	7.3	5.4
O T C 医薬品	0.8	18.1	▲5.3	▲1.1	▲5.3	▲0.7	▲1.3	5
ヘルスケア用品（衛生用品）・介護・ベビー	21	46.9	15.1	18.3	29.2	32.1	37.5	42.2
健康食品	7.6	13.4	▲4.3	▲3.9	▲6.2	0.9	2	5.2
ビューティケア（化粧品・小物）	2	3	▲10.2	▲15.4	▲18.5	▲11.7	▲12.3	▲9.2
トイレタリー	4.3	14.7	3	5.4	2.7	4.7	3.9	6.6
家庭用品・日用消耗品・ペット用品	5.1	30.8	18.9	20.2	11.1	11.8	11.1	14.4
食品	7.8	17.9	18.2	27.2	20.7	11.2	8.3	12.5
その他	▲0.0	11	5.6	9.4	12.9	15.6	12.9	16

経済産業省 商業動態統計速報 2020年9月30日

8月の上場ドラッグストア各社の月次報告では、食品比率が高い企業ほど、伸び率が高い傾向を示しています。コンビニエンスストアは対前年同月比▲5.6%のマイナス。コンビニは金額ベースで見ると食品の落ち込みが最も大きくなっています。その落ち込み分の多くをドラッグストアが吸収していることが見て取れますが、コンビニは国民の外出機会が増えるに従い、回復基調に入ると考えられます。その時にドラッグストアは、今の顧客をどれだけ惹きつけておくことができるか——、調剤も重要なテーマだと思えますが、いかに「食と健康」志向のサービスの充実を図れるかがカギを握るのではないかと考えられます。

（文責：横田）

一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 サポートセンター

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-10 楓第2ビル4階
TEL. 045-474-1311 FAX. 045-474-2569